

作品リスト

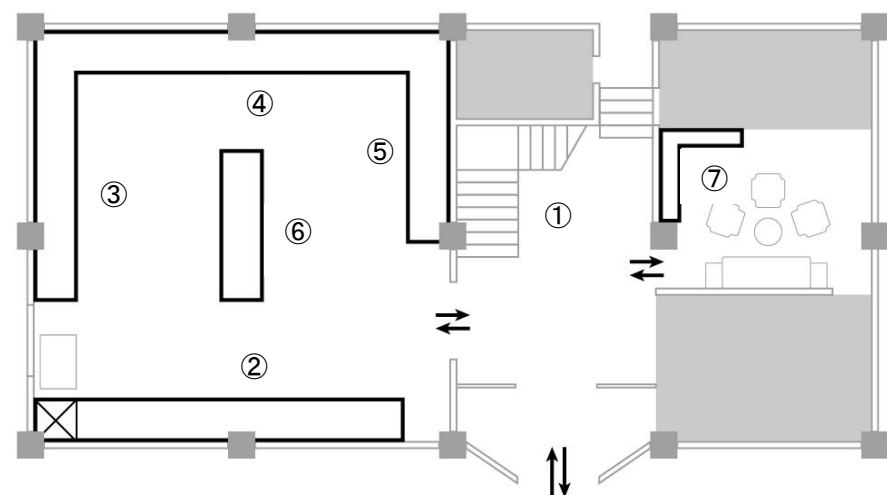
屋内

番号	作品名	寸法 (h×w×d : cm)	作者	場所
1	窯変(ようへん)壺	35×40×40	篠輪 孝治	①
2	痕(あと)	79×49×42/81×33×34/52×32×30/70×38×33/75×59×58	篠輪 孝治	②
3	窯変(ようへん)壺	49×51×51	篠輪 孝治	③
4	絵付け急須	10×8×8	上野 遊	③ ⑦
5	オフケ釉急須	10×8×8	上野 遊	③ ⑦
6	磁器皿	8×21×21	篠輪 孝治	③
7	タタラ皿	5×23×20	篠輪 孝治	③ ⑦
8	湯呑	7×6×6	篠輪 孝治	③ ⑦
9	酒カップ	7×8×9	篠輪 孝治	③ ⑦
10	湯呑	7×7×7	篠輪 孝治	③ ⑦
11	徳利	15×7×7	篠輪 孝治	③ ⑦
12	絵付け狛犬	61×40×25/60×40×25	上野 遊	④
13	オフケ釉狛犬	63×38×30/58×34×30	上野 遊	④
14	小さな狛犬	9×4×6	上野 遊	④
15	オフケ釉ゆのみ	8×6×6/9×7×7	上野 遊	④ ⑦
16	サナギ	47×46×160	上野 遊	⑤
17	窯変(ようへん)壺	17×18×18/17×18×18/20×20×20	上野 遊	⑥
18	カタマリ	31×38×37	篠輪 孝治	⑥
19	ポット	8×12×8	篠輪 孝治	⑦

屋外

20	殻(かく)	27×84×84	篠輪孝治	屋外
21	公園の花	28×70×70	上野 遊	屋外

[展示配置図]



本日は、お越しいただきありがとうございました。2年間お世話になった講師、関係者及びスタッフの皆様ありがとうございました。
第32期生研修生一同

修了制作展

潜りこませてくれるもの

Minowa Takaharu / Ueno Yu

ごあいさつ

春光うらかな好季節を迎えましたが、みなさまにはますますお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。さて、この修了制作展は、本研究所の修了年次である2年生2名の作品が展示されています。生物は、はるか昔の微生物しか存在していなかった時代から「いのちをつなぐ」ことで生きてきました。「いのちをつなぐ」ために様々な工夫や努力を重ね、進化してきたのです。この修了展は、修了生たちが、2年間の進化を見据え、将来に「つなぐ」ことを自ら考え、制作したものです。みなさまが、そこから「生きる力」を感じていただけるならば、彼らが作陶の世界で活躍する可能性も広がるものと信じています。ぜひ、ごゆっくりご覧いただき、ご意見ご感想などいただければ幸いです。

とこなめ陶の森 館長

とこなめ陶の森 陶芸研究所

〒479-0822 愛知県常滑市奥条7丁目2番地

<http://www.tokoname-toumori.jp>

開館時間 9:00~17:00

Facebook ページ: [とこなめ陶の森 陶芸研究所](#)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

お問い合わせ ☎ 0569-35-3970
✉ toumori@city.tokoname.lg.jp

展示について

この2年間、講師の先生方には小物や大物までさまざまな技術や知識を教えてくださいました。今回の修了制作展は私たちが制作に励んだ集大成です。また新たなやきものを始めるスタート地点として生活をするうえで、使われる湯呑やお皿などをはじめ、狛犬やオブジェなどに思いを込めて制作・展示しています。

展示のコンセプトは「潜りこませてくれるもの」です。このコンセプトは私たち2人が思う「よいもの」についての考え方を言葉で表しており、今回の展示作品はそれぞれの考える「よいもの」をやきもので表現しています。

上野 遊

よいものとは自分が興味を持てる物です。自分が興味を持って取り組んだ物は人にも伝わると思えます。なので、興味を持って制作すると自分の気持ちが物に伝わりそのものを見る人や使う人に伝わるのだと思います。

ゆのみは食器の中でも一番使うものという思いがあります。なので、食器の中でもゆのみにこだわりたいという思いがあります。

朝起きて食器棚を開けると色々なゆのみが並んでいます。その時、目についたゆのみを手にとってお茶やコーヒーを飲みます。ゆのみは作家のもの、趣味で作った人のも、窯元のものまでいろいろあって、日によって使うゆのみが違います。そこがよいと思う所です。他のものも興味を持って制作しています。

簗輪 孝治

私が考えるよいものとは、雰囲気が良いものです。今回の修了制作展では、ものの雰囲気が良い形や釉薬について考え、制作しました。

たとえば、今回の展示作品である徳利などの織部釉は、一般的なツヤのある釉薬ではなくツヤのない釉薬にしてあります。そのため、光を当てても輝き過ぎなく落ち着いた色調の織部釉になっています。

また、磁器の皿は手で触った痕(あと)を残すことで手の温もりを感じられるようにしました。

私は落ち着いた色調や手の温もりがあるものが雰囲気のよいものになるのだと思います。他の作品も雰囲気のよい所を意識しながら制作しています。

研修生プロフィール

上野 遊 Ueno Yu

1991年 埼玉県生まれ
2009年 自由の森学園高等学校 卒業
2012年 明星大学 造形芸術学部 退学
2013年 笠間焼 向山窯 入社
以後2年間 見習いとして勤務

簗輪 孝治 Minowa Takaharu

1995年 石川県生まれ
2014年 都立世田谷泉高等学校 卒業
第43回 長三賞常滑陶業展 入選
2015年 第44回 長三賞常滑陶業展 入選

主な作品紹介



15 オフケ釉ゆのみ (上野 遊 作)
手触りやもちやすさなどを考え作りました。



2 痕(あと) (簗輪 孝治 作)
手ひねりの痕(あと)を強く残し制作しました。



13 オフケ釉狛犬 (上野 遊 作)
美術館で狛犬を見に行った時、作りたいと思いました。



7 タタラ皿 (簗輪 孝治 作)
チグレ釉を使い、土と釉の表情を見てもらいたいと思い制作しました。